

「公共事業コスト構造改善プログラム」

【 施策名：Ⅱ. 計画・設計・施工の最適化【1】計画・設計見直しの計画 】

比較設計の充実

事業名：木更津市道9068号線 道路（橋梁）災害復旧事業

概要：災害復旧事業は原形復旧を原則とするが、経済性・施工性を比較検討し、桁橋からボックスカルバート構造とした。

効果

- 施工費用が削減された。
- 原形復旧を予定していたため11,000千円(約46%)のコスト改善が図られた。

		構造形式比較表		
名称	桁梁案	プレキャストボックスカルバート案	現場打ちボックスカルバート案	
概略図				
特徴	既設橋梁を撤去し、上部工・下部工とも既設橋を撤去し、上部工形式は、プレキャスト方式PC単組スラブ橋(113桁)。上部工の架設は、橋台背面からのトックレン架設である。下部工形式は、構造高が5m以下であることから重力式橋台。	既設橋を撤去し、ボックスカルバートを構築する案。部材は、工場で作成するプレキャスト部材とする。現場打ちに比べ、品質がよく耐久性に優れる。また、現場での施工期間が短いのが特徴である。	既設橋を撤去し、現場打ちボックスカルバートを構築する案。端部は河川と道路の交差条件から、70°の斜角を付ける。	
経済性	直接工事費	9,200,000 円	直接工事費	9,800,000 円
	諸経費 (0.8)	7,400,000 円	諸経費	7,900,000 円
	合計	16,600,000 円	合計	17,700,000 円
	比較	+11,000,000 (91%)	比較	+12,100,000 (100%)
			ボックスカルバート	3,100,000 円
			諸経費	2,500,000 円
			合計	5,600,000 円
			比較	0 (46%)